

バーチャル禅問答

コンピュータの作り出す仮想空間に描いた山水画の中で、禅宗の始祖・達磨大師らと問答を交わし、心の分析などをする「禅問答システム」を、国際電気通信基礎技術研究所(ATR、京都府精華町)の土佐尚子主任研究者と帝塚山学院大の松岡正剛教授(情報文化学)らが開発した。

「枯山水」庭園を模したパソコンを使い、月、旅人、川、山など十二の要素を仮想空間に配置して山水画を描き、心境を表現。心には実体がないことを教える「達磨安心」、ヒョウタンでナマスをどう捕らえるかを問う「瓢鮎図」など四つの問答を始める。

達磨安心では、画面に現



コンピュータで「禅問答」。「枯山水」庭園の画面に線を描くと達磨大師が答える(京都府のATRで)

A T R 画面の達磨大師とペン入力で 研究員ら開発

れた達磨大師が気持ちを書線で表現するよう指示。入力用ペンで描いた線の形によって、大師が「まだ不安か再来」「禅に理屈はいらんのだ 不問」などと答える。ペンの移動量などをコンピュータが総合し、問いの理解度、不安の度合いなどを判断する。

土佐さんはコンピュータで無意識の世界を探る研究を続けており、「禅の研究を、人間の脳に近いコンピュータ開発に結びつけたい」と話している。

臨済宗妙心寺派「徳源寺」(名古屋市中区)の禪興嶽老師の話「システムを使っ

て、悟ったと思われても困るが、禅に興味を持ってもらうきっかけになればいいのではないか」